



全国で35位 ベルマークで 施設の充実

商品についているベルマーク、(二点で一円)を集めて、教育用品を充実する運動がすすめられております。

町内では、山田小と黒崎中がこの運動に参加しております。還付金の一部はへき地校へ教育用品の購入金として贈られます。

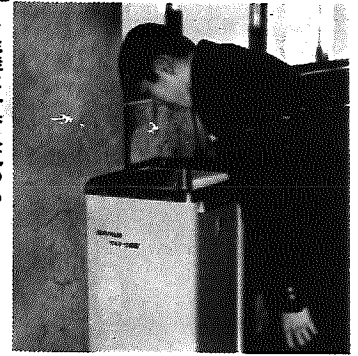
黒崎中のベルマーク委員会では今年度三十万円もの好成绩をおさめ、次のような備品を購入するこ

としております。

ウォータークーラー(冷水機九万円)鉛筆けずり(二万円)黒板ふきクリナー(二万五千円)印刷回転機(十万円)ストロボ(一万六千円)

また、数戸の商店から大量のベルマークの寄贈に、学校側では大変喜んでおります。

今後も各家庭、職場、商店などの協力を得て、ベルマーク委員会

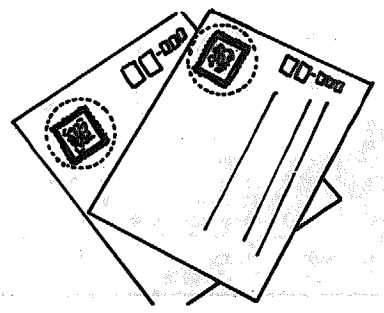


生徒に一番人気のあるウォータークーラーの充実をはかると同時に、教育用品購入の一助とし、教育効果と情操教育の輪をさらに大きくしたいとしております。

古切手を集めて 不幸な人の救済を

ご存知でしょうか、古切手で世界の不幸な人々を救うことができます。みなさんの小さなボランティアは、専門業者の手を経てロンドンの切手市場でお金に換えられるシステムになっており、およそ四百枚でBCG一本分に相当します。

一、切りとり方
切手のまわり、五ミリの紙をつけたまま切りとる。



一、送り先
役場福祉課 社会福祉協議会へ
一、期限
當時受付けておりますが、ある程度まとまってからお願います。

黒崎の「サキ」は

そのため当時は一時ウワサワしたものであります。一言でいえば大野は在方に嫌われていたため私共の主張が自然に通らなかつたのです。それではどうして黒崎村という名が付けたかという、前述のとおり、在方は大野との合併を拒み、なかなか意見が一致しないため、村名は鷲尾村長と萩野左門の両氏に一任することになったのです。そこで鷲尾氏が古い文書や旧地図を調べた結果、この地は八

百年以前から黒崎郷と呼んでいたことがわかり、古くから縁故ある黒崎をどうにかしようということになり、各村も異存なく、直ちに決定したのですが、黒崎の境は山脈でなく土層と県へ報告したのであります。

永井 当時私は木場村の議員であつたが、そのころの木場村は宮田氏のお話の通り、負担の関係上、町方と合併するのは損だと大反対したので。村名についても木場も板井も主張しなかつたのですが金巻村だけが「大野」と主張したので、ある時、鷲尾黒鳥村長が金巻村長川口氏に「何だ三文黙れ、貴様たちの音の出ず幕でない」と一喝され、川口氏も一言の音も出せなかつたことを記憶してあり

ますが、当時の鷲尾さんの威勢はすばらしいものでした。そこで村名は鷲尾さんと政界に名のある萩野左門氏に一任して「黒崎村」と決まったのでした。

大野 幕府時代に私共の方では、庄といったこともありましたが、その以前に郷といったこともあるようです。ある記録に依ると、小川の庄といったのが郷となつており、また、他の地方を見ても妻有郷とか、上田の郷といつてはいるが、とにかく庄となつた時には、区画が大きくなつたように思われ、今お話の黒崎郷というのは、まだ広い範囲であつたのではないのでしょうか。

永井 その黒崎村はもと海の岬であつたそうですが、そのころこの地方は弥彦の庄といつたそうです。

富田 そうです。越後は大体弥彦の庄といつたそうです。そして弥彦の庄内の黒崎郷という様になつていたそうです。

座長 イヤ黒崎郷といつた時代と弥彦の庄といつた時代とは、年代が違うのではないかと。

木場 現在の白根郷とか亀田郷などという名は新しく付けたのでしようか。

座長 あれは地方の都ひ(みやこ)といなかの意)を中心とした新しい郷だと思ひます。(中略)

土運と山運との違い
富田 鷲尾氏は土層の境はホリとも読むからこの方がよいと言われました。

座長 木場はむしろ旗を立て、反対したなど聞いたが本当ですか。

永井 当時木場村の一カ年の歳計に近い、一千二百円の大金を村長助役、収入役その他の慰勞金の名目で決議して、運動費にあてたそうです。

富田 私共は役場において反対運動だなど言つていました。

阿部 自宅の前の堤防を大勢して押しかけるのを見ました。

永井 それは十月十三日の事でした。平島近くの大仙坊で第一線を突破したが、白山の少し手前の交番で止められ、委員十二名だけ県庁へ行くことになつたが、その際御武田信教が「貴様たちのような木業役人に何がわかる」と言つたので拘禁されてしまった。私がいかに釈明しても許してくれませんでした。とうとう一夜留置されたのでした。(中略)

スポーツ愛好者 全員集合

剣道連盟



一、入会金(年会費)二、五〇〇円
二、練習日
毎週火、木、日曜日午後七時から

卓球愛好会



町内に在住の一般勤労者

ママさんバレーボール

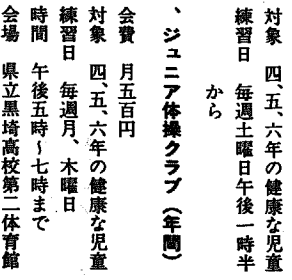


町内に在住の既婚女性

健康な汗を流そう!!

第三回婦人軽スポーツ教室
目的 軽スポーツを通じて身体活動の楽しさを理解すると同時に自己の体力、健康の保持増進をはかる
内容 バウンドテニス、美容体操、腰痛体操、ボール体操その他
対象 在町の健康な家庭婦人
年輪問わず
期間 四月九日から六月二十五日までの毎週木曜日午前十時から十二時までの十二回とす
申込 教育委員会へTELしもしくは直接申込み下さい。

ジュニアの部



一、ジュニア体操教室(年間)
入会費一人 千円
対象 四、五、六年度の健康な児童
練習日 毎週土曜日午後一時半から
二、ジュニア体操クラブ(年間)
会費 月五百円
対象 四、五、六年度の健康な児童
練習日 毎週月、木曜日
時間 午後五時~七時まで
会場 県立黒崎高校第二体育館
申込及び連絡
黒崎高校教員 岡 幹男
TEL 7-2175

健康な汗を流そう!!

一、剣道ジュニアの部
対象 四年以上~中学校三年
会費 年間 一、五〇〇円
練習日 毎週日曜日

二、練習日
毎週金曜日午後七時から
いずれも詳細は練習日に武道館へもしくは教育委員会へ
7-5211



一、入会金(年会費)二、〇〇〇円
二、練習日
毎週火、金曜日午後六時から

一、入会金(年会費)二、〇〇〇円
二、練習日
毎週火、金曜日午後六時から